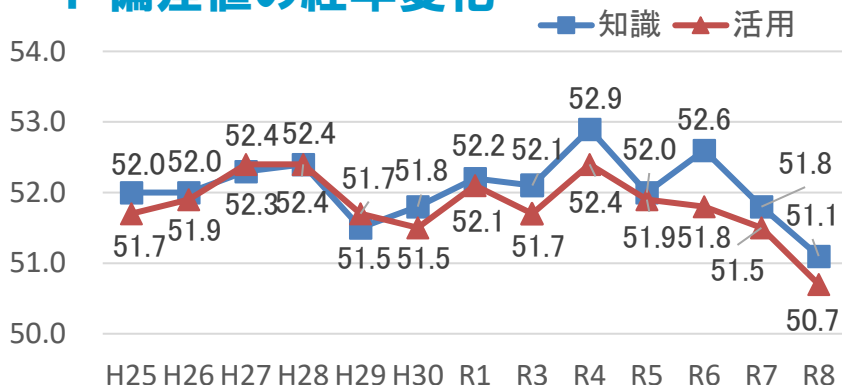


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

結果のポイント

1 偏差値の経年変化



○知識と活用ともに偏差値50を上回っている。

3 領域別の結果

領 域	県正答率	全国正答率	目標値
数と計算	66.7	64.5	62.1
図形	64.9	63.1	65.7
変化と関係	69.9	67.9	65.0
データの活用	56.7	53.6	53.8

○全ての領域において、全国正答率を上回っている。

2 観点別の結果

観 点	県正答率	全国正答率	目標値
知識・技能	70.7	68.2	67.0
思考・判断・表現	49.9	49.0	48.8

○全ての観点において、全国正答率を上回っている。

4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	63.3	61.9	60.0
短答	73.7	70.5	70.0
記述	29.4	28.2	32.5

○全ての解答形式において、全国正答率を上回っている。

■ つまづきが見られた問題

大問8(1) 県正答率13.4% 全国正答率16.5%

【ねらい】 身近にあるもののおよその面積を推測することができる。

【問題の概要】教室にある机のおよその面積を選ぶ。(選択)

【正 答】 約2400cm²

【誤答例】 約240cm²（県反応率46.3%）

◆ 指導のポイント

○面積の求め方を理解できるようにするとともに、面積や単位についての感覚を豊かにすることができるように指導することが大切である。

★ 指導の具体例

身の回りの具体物を調べる活動を取り入れる。

（例）折り紙、机の面、教室の床、花壇、体育館 等

★身の回りにある正方形や長方形の面積を実際に調べる中で、調べる対象の縦と横の長さの見当を付ける場面を設定し、その上でおよその面積を求める活動を行う。

★活動に取り組む際、児童の実態に合わせて目的意識をもたせ、例えば教室と図書室の面積の違いを調べることを通して、面積の学習が日常生活に役立つものであることを実感させるようにする。

大問12(2) 県正答率32.9% 県無解答率16.5%

【ねらい】 示された考えをもとに、小数を0.1のいくつか分けてとらえて、小数の除法を整数の除法に直して処理する方法を説明している。

【問題の概要】除数が整数である場合の小数の除法の計算の仕方を考える。(記述)

【正 答】 被除数が0.1のいくつか分けてもとにした計算方法を記述している。

◆ 指導のポイント

○小数は0.1の何個分など、数を構成する単位に着目させ、指導することが大切である。

★ 指導の具体例

数を構成する単位に着目し、計算の仕方を統合的・発展的に考察する活動を行う。

★除数が整数である場合の小数の除法について、計算の仕方を考える際に、除法における商の小数点の位置などについて、整数の場合と比べながら考えられるようにする。

★例えば、 $31.6 \div 4$ で、31.6は0.1の316個分であるから、 $316 \div 4$ で、0.1の79個分と考えるなど、数を構成する単位に着目させるようにする。また、乗法や除法の性質と関連付けて計算の仕方について考えることができるようにする。